

# 令和5年度の教育活動等に対する学校関係者評価

学校法人今泉学園いまいづみ幼稚園

## 1. 幼稚園の教育目標

- 建学の精神(不易)・・・健康で知恵のある働き手を育てる
- 将来の人材展望(流行)・・・日本人らしさを備えた国際人の育成

## 2. 本年度の重点目標(学校評価の具体的な目標や計画)

- 行事を含め全ての保育活動において創意工夫をして、質の高い幼児教育を目指す。
- 現場での教育活動だけでなく、育てる者が学べる幼稚園の環境や情報発信に努める。

## 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園の取組・反省と改善策	評価点	評価・意見
保育の計画性	3.0 p	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの感染症対策自体やそこから発見した新たな計画や内容・方法を踏まえて年間カリキュラムを立てた。5月に新型コロナウイルスが5類になったことから計画はほぼ達成でき、計画としては適当であった。</li> <li>計画への理解を保護者と共有することで、より円滑に実行していくことができる為、情報発信を多くしてきた。今後も見える化をめざしていきたい。</li> <li>週案・日案についての書式が統一・徹底がされていない。反省もできる欄等教職員の負担軽減ははかりながら改善をしていくべきである。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に不易流行の観点のもとに計画を立て遂行している様子がうかがえる。また保護者へ保育の実績(様子)を知らせていくことで、協体制が構築されているように感じる。</li> <li>保育の計画と実行はしっかり行われ適当であったという結果があるのに対し、記録の面が不十分であったことが残念である。業務のスリム化と記録の重要性を考慮して改善していけるよう期待する。</li> </ul>
保育の在り方 幼児への対応	3.4 p	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の変更により、クラス・学年・異学年の連携が重要となった。綿密な計画の上で日々の保育を行う中で、子ども達が、自ら意欲をもって取り組むことができるような環境作りと指導を心がけた。行事の順番の変更等で、子どもの心のケアも例年より配慮をしたが、教職員と子ども達、保護者の信頼関係の構築が何よりも力の源になっていることを痛感した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年リーダー同士で連携をとることで、つながる保育と個々(子どもも家庭とも)に寄り添った保育が充実してきているように感じる。</li> </ul>
保育者としての 能力や良識・適性	3.0 p	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も学年リーダーを始め大きな人事異動がなかったため個々の能力を発揮しやすかった。ただし学年リーダーが担任をもっていること、個人の働く環境により勤務の仕方が多様となった。それぞれの環境にあっても平等性も重要視した体制をこころがけたが、全教職員の共通理解が徹底しきれていなかったことが反省である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くに保護者が子どもの成長と幼稚園の取り組みに触れることができるよう、「自由参観」期間を多く設けたり、保護者のボランティアやクラブ活動を園内で行うことで、いろいろな人の目により健全な保育が行えているように感じる。今後もいろいろな人の味方や感じ方をよりよい保育につなげていけることを期待する</li> </ul>
保護者への対応	3.5 p	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口を副園長に限るなどして対応を統一化したことで、今年度も閉鎖や休園をすることなく1年を過ごした。</li> <li>年に2回、虐待等に関するアンケートを発信することを心がけた。特に教諭による不適切な対応の投稿はなかった。しかし、日々にある保護者の不満や苦情については個々に対応はしているものの、決まった様式がなく、ノート等に記録をしてあるため、今後は様式を統一して記録・対応・保管をしていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の声を聞き逃さず、不安材料がある場合はできるだけ早く対応することで、信頼関係が築けているように感じる。その信頼関係のもとに幼稚園と家庭が同じ方向を目指すことで子どものより良い成長につながり、「保育の質の向上」にもなる。</li> </ul>
地域の自然や社会との関わり	3.2 p	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区行事は、天候により出場がなくなったものが「スポーツ祭」、計画の時点で欠場となっていたものが「防災まつり」で、予定通り参加できたのが「文化祭」のみとなった。</li> <li>地区の体制の改革により地区行事の開催時期や方法も変わってきているので、今後は事前に年間予定とその方法についての打合せを要する。</li> <li>今泉文庫貸出しについては、年中・長児は例年通りに行い、年少児に関しては通年とおして移動図書館を初めて利用したが、貸出しについては安全性と時間に余裕が持てとても良かった。</li> <li>3月のお別れ遠足は、原田公園へ徒歩遠足を行った。地域の小学校の遠足と重なり、関わりが広がる良い経験であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、地震や自然災害が頻繁になってきていること、より威力がまっている。安全・防災の面においても地域との交流は大切にしていくべきである。地区の団体とは、体制がかわったことや年間スケジュールを決定する時期がずれることで参加が難しい状況もあるようだが、できるだけ参加できるよう期待する。</li> <li>少子化・核家族化が急速に進む中、地域のいろいろな年齢層の人々との交流により、人間関係の幅を広げていくこともできるように感じる。今後もこちらから出ていく活動だけでなく、園内に引き入れる活動も検討してみてもよいのではないかと。</li> </ul>
研修と研究	3.5 p	<ul style="list-style-type: none"> <li>リモート研修も含めて、かなりの研修が戻ってきたこともあり、研修参加が充実してきた。教職員の時間と身体的な負担を考慮して、対面かリモートかを選択することもできたのは良かった。</li> <li>当園の関係者(保護者や祖父母等)を講師に迎えた園内研修で「はじめての「からだ」と「性」のおはなし」を開催した。保護者への講話であったが、教諭である者もしておくべきことであると園内研修とした。必要に応じてこうした研修も増やしていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修が充実してきていることが感じられる。また身近なところから人材を確保するアンテナの高さと、すぐに実行に移せる行動力、保護者への情報提供などの試みは多いに評価する。今後も教職員だけでなく、保護者とともに学べる場の提供を作っていくことを期待する。</li> <li>安全危機管理に関する研修を見直し、積極的に受講することが望ましい。</li> </ul>

### ※評価結果の表示方法

自己評価	3.1~4.0p	充分達成されている	2.1~3.0p	達成されている	1.1~2.0p	取組んでいるが達成されていない	0.1~1.0p	取組みが不十分
学校関係者評価	A	充分成果があった	B	成果があった	C	少し成果があった	D	成果がなかった

【総評】 年間を通して保護者や実習生などが多く、ホームページなどで幼稚園の教育方針や保育に対する考え方や活動の様子を発信するなど、開かれた幼稚園であることはよいことだと感じる。また安全・安心につながることで、安全危機管理の見直しをするとともに、リーダーとなる教職員が研修会に積極的に参加し、園内研修に取り入れるなどしていく必要がある。